

# 都市フォーラム28号

東北都市学会通信（通巻28号）

2014年7月11日

<http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html>

## 主なトピック

- ・東北都市学会 2014 年度大会のお知らせ
- ・2014 年度大会発表等の申込
- ・石巻支部会の活動
- ・2013 年度会員会を開催
- ・日本都市学会 2014 年度大会のお知らせ
- ・『研究年報』第 14 号編集状況
- ・『研究年報』第 15 号投稿論文の募集
- ・会員の状況
- ・2014 年度会費納入のお願い
- ・事務局から

## 東北都市学会 2014 年度大会のお知らせ

2014 年度東北都市学会大会は、**9月27日(土)・28日(日)に八戸駅前の「八戸地域地場産業振興センター ユートリー」(青森県八戸市一番町一丁目9-22)で開催**いたします。27 日の午後八戸市内のエクスカーション(予定)と懇親会、28 日午前理事会・会員会・研究発表を行います。

会員の皆さんのご参加をお待ちしています。大会要項は次のとおりです。自由研究発表への申込もお待ちしています。**参加の可否については、同封の葉書で8月24日(必着)までにご返送下さい。**

### [2014 年度大会開催要項]

日程 9月27日(土)～28日(日)

会場 八戸地域地場産業振興センター  
ユートリー

### [プログラム] (予定)

27日(土)

12:00～16:30 エクスカーション(予定)

18:00～20:00 懇親会(場所未定)

28日(日)

10:00～10:40 理事会

10:50～11:30 会員会

13:00～17:00 研究発表

## 2014 年度大会研究発表の申し込み

2014 年度大会における自由報告の発表を募集いたします。以下の発表申し込み要領、発表要旨作成要領ならびに発表要領をご覧の上、電子メール、または同封の発表申し込みハガキに必要事項を記入し、学会事務局にお送り下さい。

### [発表申し込み要領]

- ・発表の申し込みはできるだけ電子メールを使用して下さい。  
**tabuchi@fukushima-nct.ac.jp**
- ・発表申込締切は**8月24日**です(必着)。
- ・共同発表の場合は、すべての共同者の名前を書き、発表者には○印をつけて下さい。また、発表者は4人以内とします。
- ・取り消しの必要が生じた場合は、直ちに事務局に連絡して下さい。

### [発表要旨作成要領]

発表要旨は次の要領で作成してください。

- ① A4 サイズの用紙を使い、ワープロで作成しプリントアウトして下さい。印刷余白は上下左右とも**25mm**とって下さい。
- ② ページ設定を**40字×40行**にしてください。
- ③ 発表題目は**16ポイント・ゴシック**に指定し、センターに置いて下さい。副題は**12ポイント・ゴシック**にしてください。
- ④ 名前(所属)は**12ポイント**にし、右に揃えて下さい。
- ⑤ 題目と名前の間、および名前と本文の間に**1行余白**を入れて下さい。
- ⑥ 本文は**12ポイント**にしてください。
- ⑦ 要旨は、A4 用紙**2枚**に収めて下さい(一人分です。共同の場合は**6枚以内**です)。
- ⑧ 要旨はなるべく電子メールによる添付ファイルで提出してください。郵送の場合は、A4 の用紙を折らないように大きい封筒をお使い下さい。
- ⑨ 発表申込締切は**8月24日**です。発表要旨

の送付締切日は **9月21日** です。厳守をお願いいたします。

- ⑩ 要旨のフォーマットは学会 HP に掲載しますので、そちらもご活用ください。

要旨の送付は **電子メールを使用して下さい** ([tabuchi@fukushima-nct.ac.jp](mailto:tabuchi@fukushima-nct.ac.jp))。

#### [発表要領]

- ・ 発表内容は、都市に関する研究報告、調査研究報告、都市施策・まちづくり・地域づくり等の実践報告を主とします。
- ・ 個人発表の場合は発表、質疑応答、交代時間を含めて 30 分とします。**共同発表も同時にとします。**
- ・ いずれも時間を厳守して下さい。
- ・ 発表の際には、発表レジュメあるいは発表資料をできるだけ用意して下さい。

#### 石巻支部会の活動

年 5 回以上の支部会を開催し、活況が続く石巻支部ですが、2013 年度もベガルタ仙台の斎藤美和子会員、石巻専修大学の若月昇会員を中心に活動が行われました。支部会は第 1 回 5 月 13 日、第 2 回 7 月 22 日、第 3 回 9 月 2 日、第 4 回 10 月 7 日、第 5 回 12 月 16 日(忘年会含む)、第 6 回 2 月 3 日に開きました。本年度は『サンファン出帆 401 年』や石巻が起点となった『ツール・ド・東北 2013』などのイベントの活性化に向けて意見が交わされました。

2014 年度も 4 月 22 日に第 1 回を、7 月 7 日に第 2 回が開催されました。文末になりますが、関係者の皆様方に深く御礼を申し上げます。



石巻支部会の忘年会

#### 2013 年度会員会を開催

2013 年度の会員会を 2013 年 9 月 21 日に開催

しました。会員会の議事は次のとおりです。

1. 2012 年度事業報告
2. 2012 年度決算 (案)
3. 2013 年度事業報告 (案)
4. 2013 年度予算 (案)
5. 次年度大会について
6. その他 (会員の状況など)

報告事項では理事会、2012 年度大会、公開シンポジウムの開催、石巻支部会の報告、学会通信および研究年報の発行が報告されました。

#### 日本都市学会 2014 年度大会のお知らせ

2014 年度日本都市学会大会は、**10月24日(金)～26日(日)に同志社大学今出川校地にて京都市の後援を得て開催**いたします。24 日の午後に京都市内のエクスカッション(予定)、25 日午前に研究発表 I、午後に特別講演・シンポジウム等と懇親会、26 日に研究発表 II が行われます。日本都市学会員の皆様のご参加をお待ちしています。

#### 『研究年報』第 14 号編集状況

大変遅くなり、申し訳ございません。論文 4 編、研究ノート 1 編、震災関連の特集論文 2 編、シンポジウム特集で構成される『研究年報』第 14 号は、編集作業が遅れており、2014 年 8 月末までには皆さまのお手元に届けられるよう、努力してまいります。

#### 『研究年報』第 15 号論文の募集

『研究年報』第 15 号は 2015 年度夏頃の発行を目指し、論文を募集しています。また、13 号から東日本大震災関連の特集論文の募集も同時に行っておりますので、投稿ご希望の方は学会事務局までお問い合わせください。

学会誌のコンスタントな発行と内容の充実をとおし、東北都市学会の一層の盛り上げを図ろうと考えておりますので、ふるってご応募ください。なお、上記に限らず自由投稿論文は随時受け付けています。「論文」、「研究ノート」、「フィールド・ノート」、「都市情報」、「書評」、「文献紹介」、すべてのジャンルで受け付けます。投稿にあたっては、研究年報各号に掲載している[研究年報投稿規程]にしたがって原稿を作成のうえ、下記『研究年報』編集委員会宛にお送りください。なお、従来のような紙媒体による投稿に限らず、**Word 形式の論文データを添付した電子メールによる投稿も受け付けます。**

『研究年報』編集事務局

〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30  
福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科  
田淵義英研究室気付  
E-mail tabuchi@fukushima-nct.ac.jp

会員の状況 2014年3月末現在

一般個人：78 一般学生：2 団体：4  
(日本都市学会会員 82)  
地域個人：24 地域学生：3  
合計会員数 109

2014年度会費納入のお願い

2014年度の会費納入をお願いします(過年度分も含む)。学会の活動は、会費によって支えられています。会員の皆様の迅速な納入をお願いいたします。うっかり滞納をされている会員もおられるかと思えます。納入にご協力ください。また、3年以上滞納されている会員の方には別途、連絡いたします。

なお、会費請求書は大会案内時に同封いたしますので、郵便振替あるいは銀行振込でお支払い下さい。会費は次のとおりです。

[会費]

一般個人会員 9,000円  
地域個人会員 5,000円  
一般学生会員 7,000円  
地域学生会員 3,000円  
団体会員  
東北都市学会費 10,000円×回数+日本都市学会費 4,000円

[納入方法]

郵便振替 02250-2-42389 東北都市学会  
郵便貯金口座 18140-27225001 東北都市学会  
銀行口座 七十七銀行 仙台市役所支店  
(普) 5253861 東北都市学会 会長 増田聡

東北都市学会役員 (2012.10~2014.9)

会長 増田 聡:【本部支部会長理事】  
理事 北原 啓司(青森)  
理事 石沢 真貴(秋田)  
理事 佐藤 慎也(山形)

理事 吉野 英岐(岩手):編集担当  
理事 千葉 昭彦(宮城):【本部支部選出理事】  
理事 初沢 敏生(福島)  
理事 岩動 志乃夫:研究活動担当  
理事 齊藤 美和子  
理事 佐藤 信夫  
理事 佐藤 直由:会計担当【本部監事】  
理事 土屋 純:【本部常任理事】  
理事 仙台市  
(担当:企画市民局総合政策部政策計画課)  
理事 仙台エリアマーク事業協同組合  
(担当:松本 真明)  
監事 阿見 孝雄・齋藤 綾美

※研究専門委員

岩動志乃夫(委員長)、加藤涉、齊藤美和子、佐藤直由、高橋英博、土屋純、初沢敏生、日野正輝、若月昇、松本行真

事務局から

- ▼ 『都市フォーラム』は会員の皆さまのお手元に届く少し前には、HPでもご覧になれます。
- ▼ 2014年度日本都市学会大会は10月24日~26日の3日間、京都府京都市の同志社大学今出川校地にて『都市・文化・まちづくり』をテーマに開催します。
- ▼ 東北都市学会事務局の機能を一部(フォーラム作成、発送作業など)、福島工業高等専門学校の田淵義英会員にお願いすることになりました。皆さまのご協力のほどお願いします。
- ▼ 第15号は自由投稿論文に加え、震災関連の調査研究報告の特集を行います。会員の皆さま方のご協力をお願いいたします。

\*\*\*\*\*

都市フォーラム 28号

東北都市学会通信  
2014年(平成26年)7月11日発行  
編集発行 東北都市学会事務局  
〒970-8034 いわき市平上荒川字長尾 30  
福島工業高等専門学校コミュニケーション情報学科  
田淵義英研究室気付  
Tel 0246-46-0857(直通)  
E-mail tabuchi@fukushima-nct.ac.jp  
http://www.senkyo.co.jp/tau/index.html

## 2014 年度東北都市学会大会

### 「極点社会」における安全・安心社会の実現—地域コミュニティのゆくえ

東北都市学会会長 増田 聡

2014年5月8日、「日本創生会議」は、2040年に896の自治体で、20代・30代の女性が2010年と比べて半減し、「消滅」しうるとの試算を発表し、大きな衝撃を社会に与えた。とくに、東北地方では多くの自治体が「消滅」リストに名を連ねている(若年女性の減少率が高い自治体を見ると、県レベルでは、1位が秋田県、2位が青森県、4位が岩手県、5位が山形県である。中核市レベルでは、2位が青森市、3位が秋田市である。特例市では、1位が八戸市である(朝日新聞 2014年5月9日))。今日、日本の地方社会において、一定の人口減少は受入れざるをえない現実である。反面、それに社会がどう対処し、その負の影響を社会でどうやわらげ、安全で暮らしやすい地域を創るのか、地域社会の対応が迫られている。

さらに、2011年3月に発生した、東日本大震災のインパクトは、地域社会の重要性を再認識させた。岩手、宮城、福島ほどの甚大な被害ではなかったものの、八戸市をはじめとする太平洋沿岸部を中心として、青森県も震災の被害を受けた。震災後、沿岸部を中心に、自主防災組織の組織化、地域のネットワークの確認、防災・避難訓練、災害弱者の名簿づくり、避難ルートの再確認、防災グッズの拡充など、地域社会における防災や安全に対する意識が高まっており、防災の面からも地域社会の重要性に対する認識が高まっている。

ところで、2013年12月—2014年1月に、八戸市の全町内会を対象とする町内会調査が実施されている(松本・檜楨・齊藤)。同様の調査は東北6県の県庁所在地および、弘前市、いわき市で実施済みである。これらの結果によれば、地域社会の安全・安心の一端を担っており、また今後もその役割を期待されている町内会・自治会には、全国の他の多くの地域における町内会・自治会と同様に、衰退傾向がみられる。

他方で、1990年代以降、自治体財政の悪化や「新しい公共」に関する議論を背景として、自治体と市民の協働が強調され、町内会・自治会およびその他の主体と行政との協働が全国各地で進められてきた。八戸市では、2003年(H15年)より、「協働のまちづくり」市民議会が組織され、翌2004年9月に八戸市協働のまちづくり基本条例」が議会で可決された(翌年施行)。協働の町づくりの取り組みがはじまり、10年目を迎える八戸市では、市民や地域社会(町内会など)によるまちづくりが一定程度成果をあげ、市民・住民のあいだに一定のノウハウが蓄積され、ネットワークが構築されるなどしている。反面、まちづくりのとりくみや奨励金への一般市民の関心などには課題もある。

以上みたように、安全で安心なまちづくり、地域づくりがいつそう求められる今日、それを行政以外の市民や地域が、どう担うのかあるいは行政と住民がどう連携するのかについては、課題も多い。地域経済の空洞化、若者の流出、空き家の増加など「極点社会」が現実味を帯びて感じられる地方都市において、住民の安全・安心を「誰が」「どのように」提供すべきなのか、本大会では、テーマを「極点社会」における安全・安心社会の実現——地域コミュニティのゆくえ」に設定し、主に地域コミュニティに焦点をあてつつ、現状と今後の課題を検討する。このテーマに準じた各方面の専門家による研究報告、エクスカージョンを行う。

【主催】東北都市学会 【共催】日本都市学会 【後援】八戸学院大学(予定)

【開催時期】2014年9月27(土)～28(日)

【場所】八戸地域地場産業振興センター ユートリー

【日程】

27日(土)12時～20時

13時～16時半 エクスカーション(参加費 2,000円)

17時～19時 懇親会(会費 5,000円)

※ 懇親会会場には、エクスカーションから車でそのまま移動しますので、懇親会に参加予定の方は、エクスカーションからご参加いただくのが便利です。懇親会のみ参加される方は、鮫駅からタクシーをご利用下さい。

28日(日)10時～17時

10時00分～10時40分 理事会

10時50分～11時30分 会員会

13時～17時 研究発表

- 懇親会会場には、エクスカーションから車でそのまま移動しますので、懇親会に参加予定の方は、エクスカーションからご参加いただくのが便利です。
- 懇親会のみ参加される方は、鮫駅からタクシーをご利用下さい。
- 宿泊場所などは、各自でご手配下さい。

※参加の可否については、同封の葉書で8月24日(日)(必着)までにご返送下さい。

※発表要旨は事務局・田淵(tabuchi@fukushima-nct.ac.jp)へ9月21日(日)までに送信してください。

※エクスカーション、懇親会場などの詳細が決まり次第、東北都市学会ホームページでお知らせし、9月発送予定の大会案内に記載します。

## 2012年度 東北都市学会 決算報告

貸借対照表(2013年3月31日現在) 単位:円

科目	金額	科目	金額
現金	0	次年度繰越	495,687
郵便貯金	329,417		
銀行預金	166,270		
合計	495,687	合計	495,687

収支計算書(自2012年4月1日 至2013年3月31日)

収入の部

単位:円

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 前年度繰越金	603,438	603,438	0	
2 会費収入	800,000	582,000	218,000	団体4、一般個人41、一般学生1、地域個人19(過年度分含む)
3 利息	100	84	16	
4 広告収入	0	0	0	
5 年報代収入	0	0	0	
6 大会参加費	30,000	23,000	7,000	
7 臨時的収入	0	32,966	-32,966	石巻大会黒字による
合計	1,433,538	1,241,488	192,050	

支出の部

単位:円

科目	予算額	決算額	増減	摘要
1 印刷費	700,000	341,171	358,829	封筒、研究年報(200部 No.11・12)
2 郵送費	40,000	14,740	25,260	フォーラム26号、石巻大会案内に関する切手、宛名ラベル等
3 事務雑費	30,000	25,290	4,710	事務用品、事務アルバイト等、振込手数料
4 旅費	20,000	26,000	-6,000	理事会出席旅費
5 会議費	20,000	0	20,000	
6 委託費	30,000	20,000	10,000	テープ起こし料
7 研究活動費	30,000	0	30,000	研究例会講師謝金等
8 大会運営費	150,000	0	150,000	2012年度石巻大会
9 ホームページ管理費	12,600	12,600	0	2011年度
10 日本都市学会会費	306,000	306,000	0	2012年度 4,000円×90名×0.85
11 次年度繰越金	94,938	495,687	-400,749	2012年度発行年報費用(35万)を13年度に繰り越しのため
合計	1,433,538	1,241,488	192,050	

上記2012年度東北都市学会会計の決算を報告いたします。 2013年 8月 31日

東北都市学会会計担当 松本 行真

2013年3月31日現在の東北都市学会の収支状況を適正に表示しているものと認めます。

2013年 8月 31日

監事 阿見 孝雄

監事 斉藤 綾美

## 2013年度 東北都市学会 予算案

### 収入の部

単位:円

科目	予算額	昨年度実績	摘要
1 前年度繰越金	495,687	603,438	
2 会費収入	700,000	582,000	団体4、一般78、地域23 納付率80%として算出
3 利息	100	84	
4 広告収入	0	0	
5 年報代収入	0	0	
6 大会参加費	30,000	23,000	
7 臨時的収入	0	32,966	
合計	1,225,787	1,241,488	

### 支出の部

単位:円

科目	予算額	昨年度実績	摘要
1 印刷費	350,000	341,171	封筒、研究年報(200部 No.13号(8月上旬発送))
2 郵送費	40,000	14,740	フォーラム発送に関する切手、宛名ラベル等
3 事務雑費	30,000	25,290	事務用品、事務アルバイト等、振込手数料
4 旅費	20,000	26,000	理事会出席旅費
5 会議費	20,000	0	
6 委託費	30,000	20,000	テーブル起こし料
7 研究活動費	30,000	0	研究例会講師謝金等
8 大会運営費	150,000	0	2013年度横手大会
9 ホームページ管理費	12,600	12,600	
10 日本都市学会会費	278,800	306,000	2013年度 4,000円×82名×0.85
11 次年度繰越金	264,387	495,687	
合計	1,225,787	1,241,488	